



### 創学舎百人一首大会二〇一九

去る六月十五日に創学舎で「百人一首大会」を開催いたしました。今年で三回目となるこの大会。当日は雨となつてしまいましたが、出場者の方々や見学いらつしやつた保護者の方々のおかげで、今大会も非常に盛り上がりました。この場をお借りして御礼申し上げます。

今大会は、二ブロックに分け、一つは三人一組によるチーム戦、もう一つは二人一組によるチーム戦を行いました。今大会も昨年同様、白熱した試合が多く、観ていて非常に楽しかったです。

今大会の表彰者は次の方々です。個人総合順位は、各ブロックにおける、全三試合の取り札の合計枚数によるものです。



#### 【最優秀賞(個人総合第一位)】

《図書カード三千円分贈呈》

○・Mさん(柏市立第三小五年)

Y・Yさん(新宿区立落合第五小五年)

#### 【優秀賞(個人総合第二位)】

《図書カード二千円分贈呈》

B・Sさん(柏市立中原小六年)

S・Yさん(我孫子市立第一小五年)

#### 【敢闘賞(個人総合第三位)】

《図書カード千円分贈呈》

I・Yさん(野田市立みずき小六年)

O・Sさん(柏市立増尾西小五年)

#### 【パーフェクト賞(該当者八名)】

《クオカード五百円分贈呈》

\*パーフェクト賞は全三試合を全勝したチームのメンバーが対象です。

I・Yさん(野田市立みずき小六年)

O・Kくん(流山市立西深井小六年)

N・Yさん(流山市立西深井小六年)

A・Yさん(柏市立第三小五年)

O・Mさん(柏市立第三小五年)

T・Nさん(柏市立第三小五年)

Y・Yさん(新宿区立落合第五小五年)

Y・Yさん(新宿区立落合第五小三年)

#### 【ビタリ賞(該当者三名)】

《蛍光ペン五色セット贈呈》

\*主催者による特別賞です。

N・Tくん(柏市立中原小六年)

T・Nさん(柏市立第三小五年)

F・Sさん(鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小五年)

表彰されたみなさん、誠におめでとうございます。なお、ささやかではございますが、今大会に出場してくださった方々全員に参加賞を授与しております。みなさんにとって良き思い出の品になれば幸いです。

最後になりますが、今大会を通じて、みなさんに「かるた取り」の楽しさを体感していただき、今後の百人一首暗唱に良い影響を及ぼすことを強く願っています。百人一首暗唱を続けることで地頭(じあたま)を鍛え、みなさんがどんな成長していく姿を創学舎は楽しみにしています。

(村田)

### 勉強法を知らない子供達⑨

●模擬試験・入試で力が発揮できない人達の分

析と対処の続きである。

(2)生徒 「試験のとき、頭が真っ白になってしまいます。」

回答 「落ち着け。落ち着いてやればきみは大丈夫。」

コメント これは不毛である。真っ白から落ち着いた状態になるまでの過程が示されていないからである。では、どうするか?①**落ち着こうとしないことが大事。** 落ち着こうとすると、真っ白になりかけている自分と、落ち着こうとする自分が心の中で闘いを始めてしまう。当然、問題にきちんと向かうことなどできない。(ここま

でが前回の内容です。)②「**真っ白になった」ときのことを振り返ってメモをする。**どの模試で、どの科目で。何番の問題で。真っ白な状態はずっと続いたのか?「真っ白になった」とぼやくくせにいつの間にか忘れる人がほとんど。そして、試験を受けてまた「**真っ白になった**」と嘆く。愚かである。メモをして、本気で何とかしたいと思うまで何度も読むことである。③「**真っ白**」になって、良いことがあったか、点が伸びるか思い出してみることに。当然、良いことはないし、点は伸びるはずがない。④①の続きになるが闘うことをやめて、次の通りに反応できるようにシミュレーションをくり返すこと。

「やばい。頭が真っ白だ。」↓「仕方ない。自分の癖だから。」↓「そういえば、真っ白になっていいことはなかったな。」↓「三回深呼吸しよう。」↓「肩を三回まわそう。」↓「さあ、これからどうしよう。真っ白のまま最後まで過ごそうか。いや、点数は悪くてもいいから、**1**だけ頑張ってみよう。」

これを何十回もくり返すのだ。「**真っ白**」になる

ことを前提に、「**真っ白**」になったら、すぐに「**シミュレーション**」が再現できるよりにくり返す。



●実は、これまで述べたことは、どの本にも書いてない。おそろく、こうしたことを生徒に伝えられる親も教師もほとんどいないはずだ。では、何故私はこうやって書けるのか?それは生徒達のおかげである。私が高校生と行う面接は年間で千回を超える。やっっているのに伸びない悩みを訴える生徒は大勢いて、彼らの日常の学習やテストの受け方を細かく細かく聞きとっていくなかで見えてきたことである。

●さて、真っ白になって、大逆転をした生徒の話しよう。少しみんなも勇気がでるはずだ。●A子さんは、私立文系。おとなしいが真面目で勉強もある程度やってはいた。私は、おそらくGMARCHのどこかには合格すると思っていた。そのA子さんが二月十日頃、泣きながら真っ青な顔をして塾にやってきた。すでに受験が始まっているはず。そのただならぬ気配に、私は驚いた。「どうしたんだ?」「今日、入試だった……。白紙で出した……。」「え、記号くらい書かなかったのか?」「完全に白紙……。今日で三回目の入試……。今まで全部白紙……。」「(以下次号)

～国語科推薦～

### ナツイチ二〇一九

●『晩年』 太宰治(新潮文庫・角川文庫など)

「撰ばれてあることの恍惚と不安と二つ我に

あり」。今年、生誕百周年を迎えた太宰の、遺書がわりに書いたとされる第一作品集。十五の短編から成る、ビギナーにお勧めの一冊。文章の美しさとユーモア精神を堪能できます。

(片岡)

●『鳥に単は似合わない』

からす ひとえ

阿部智里(文春文庫)

三本足の伝説の鳥「八咫鳥」を知っていますか？



彼らが、縦横無尽に飛び回る和風ファンタジーです。平安王朝風のみやびな朝廷世界、とても魅力的な登場人物たちが出てきます。また、伏線が張り巡らされており、サスペンシブな要素もあります。どんな風景なのか、想像しながら読んで読んでくれたら、うれしいです。この本は、シリーズが多く出版されています。まずは、冒頭の本からスタートするのがおすすめです。

(関野)

数学科推薦

●『スウガクって、なんの役に立ちますか？』

杉原厚吉(誠文堂新光社)

数学が困っていることの解決に役立つ場面を集めています。お話として面白く読んで、数学は役立つものでもあることを感じてもらえる。少しは苦手意識が減るかもしれません。

●『世界を変えた一七の方程式』

イアン・スチュアート

(ソフトバンククリエイティブ)

本書は、人類の進歩を一七の方程式を通じて語った物語です。

方程式は、地図の作成から衛星ナビゲーションまで、音楽からテレビまで、アメリカ大陸の発見から木星の衛星の探査までと、今日の世界を作り上げるうえできわめて大きな役割を果たしてきました。

内容は少し難しいかもしれませんが、過去の数学者たちが方程式を完成させていく状況などが楽しめます。難しそうなあとと思う人は、著者はパズル本など多数出していますのでそちらを読んでみてください。

(松永)

英語科推薦

●『ネイティブはこう使う！マンガでわかる』

○○『シリーズ デイビッド・セイン(西東社)』

著者は、豊富な教授経験を生かし執筆や翻訳などで活躍中のデイビッド・セイン氏。本シリーズでは、「前置詞」「冠詞」「時制」など、なかなかイメージしづらい単元をマンガで解説します。愉快な三人の登場人物が繰り広げるドラマチックな読みながら、楽しく英語を学んでみてください。

(高寺)

●『ステイブ・ジョブズ・伝説のスピーチ&プレゼン(CNN音源CD付)』(朝日出版社)

スタンフォード大学卒業式でのスピーチでは、本人の死生観にも触れていて、読み物としても面白いと思います。新作発表のプレゼンは四六行の英文に絞ったものもあり、「まさか?」「もしかして?」の歓声の中のAre you getting it?

を自分ならどう和訳するか考えてみるのも面白いのではないのでしょうか?

(五日市)

理科推薦

●『科学のミカタ』

元村有希子(毎日新聞出版)

A1(エイアイ)・ゲノム・重力波等どこかで聞いたことがあるけど実はよくわからないワード。これらを科学技術や環境問題を長年取材してきた著者が、感心したものや心に引っかかったものを、理系に詳しくない人でも分かるように書いてくれた科学エッセイ本です。(高校生向き)

●『空想科学読本』『ジュニア空想科学読本』

柳田理科雄(角川文庫ほか)

『ドラえもん』のタケコプターや五エ門の斬鉄剣、『デニプリ』菊丸の一人ダブルスや『黒子のバスケ』緑間の3Pシュートなど、マンガやアニメに登場する驚異的なアイテムやすごい技は実現可能なのだろうか?実現したら何が起こるのか。科学を使って面白おかしく解説してくれる本です。科学や理科に興味が無い人には是非読んでほしい本です。(小学生・高校生向き)



(長坂)

社会科推薦

●『政治と経済のしくみがわかるおとな事典』

監修:池上彰(講談社)

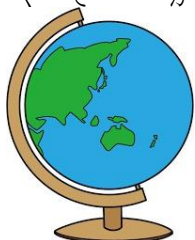
対象:中学生

公民分野の学習が始まる中学三年生はもちろん、ニュースや新聞などで見聞きする政治や経済、世界の話題や用語、しくみに興味がある人にお勧めの一冊です。タイトルには『おとなの』とついていますが、一つ一つのテーマがイラスト図解で著され、一話完結になっているなど大変にわかりやすい仕立てになっています。

●『池上彰の世界の見方』池上彰(小学館)

対象:中学生

今、私たちが生きている世界、私たちを取り巻く世界を、「地図から」「お金から」「宗教から」「資源から」「文化から」「情報から」の六つの視点から紐解く本です。地理のみならず、歴史や公民内容、そして環境や文化についても幅広く学べる一冊です。



●『五分でわかる十年後の自分 二〇三〇年のハローワーク』 図子慧(KADOKAWA)

対象:小学校高学年~中学生

皆さんは将来やってみたい仕事や、就きたい職業について考えてみたことがありますか?皆さんが成人して、社会に出る頃には、今以上に多様な仕事、職業が表れているかもしれません。もしかしたらAI(人工知能)にとって代わられてしまう仕事や職業があるかも……。この本を通じて、「仕事」「職業」とは何かを学び、どんな仕事や職業があるのかを知り、皆さんの将来を考える上での一助にしたいと思います。

(青木)